

第2分科会「キャリア教育の充実」課題と具体的方策について

資料3：検討用資料

	1 教育活動全体を通じた 組織的・系統的なキャリア教育の推進	2 適切な就職支援	3 地域と共に創る学校づくりの 視点からのキャリア教育のあり方	4 教員の指導力の向上に向けた取組
<p>課題 (前回会議で出された内容)</p> <p>※下段事務局が 予め示した課題 (未だ協議に出ていない項目)</p>	<p>①子どもたちは、人生の基礎づくりについて、あまり教育されていない。自分の夢についてわからない場合が多い。</p> <p>②「三重県職場体験・インターンシップ受入事業所の案内Webページ」の周知が不十分である。</p> <p>③企業のインターンシップの受け皿が十分でない。</p> <p>④中小企業はインターンシップを受け入れる体制があるにも関わらず、教育現場はその情報を探せないでいる。</p> <p>⑤普通科の教育課程上、企業と連携したキャリア教育を実施する時間の確保が難しい。また普通科の生徒に対するキャリア教育のあり方が課題（生徒が職業に対する現実感を持ってない等）である。</p> <p>⑥職業実習やインターンシップの期間が短く、効果が十分発揮できていない。</p> <p>⑦キャリア教育を効果的に推進するには、普通科校と職業校のそれぞれの特色を踏まえた対策が講じられる必要がある反面、共通して必要な内容を整理し実施する事も必要である。</p> <p>⑧小中学校での連携は行いやすいが、高校は中学校との連続性が無いことから、どのように連携するかが課題である。</p> <p>⑨小学校や中学校段階でのしっかりしたキャリア教育がされないと、高校でのキャリア教育の効果が十分に得られないのではないか。</p> <p>⑩企業側として本当のインターンシップができていないか自信が無い。</p> <p>⑪高校の立地によって、生徒が知りうる企業に関する情報に差がある。</p> <p>⑫高校でのキャリア教育の目的が、小学校・中学校と一緒に不十分である。</p> <p>【予め示した課題】</p> <p>(1) 学校としての計画を策定し、組織的に取り組むための校内体制整備が不十分である。</p> <p>(2) 産業構造が変化する中、企業の求める人材育成に必ずしも十分対応できていない。</p> <p>(3) 特別支援学校関係：コース制導入に向けて、教育課程編成における工夫や、企業や地域・社会との協力体制の充実が必要である。</p>	<p>①マッチングを進めるには、学校側及び企業側双方の事情に通じていることが必要であり、今の学校現場の状況では、対応する事は、難しいのではないかと。</p> <p>②企業側が「このような職業がある」ということを、生徒たちに説明する場がない。</p> <p>③中小企業も意識も変えていく必要がある。</p> <p>【予め示した課題】以下全て特別支援学校関係</p> <p>(1) 就労先の確保が不十分である。</p> <p>(2) 企業に対する障がい特性の周知が不十分である。</p> <p>(3) 発達障がい生徒に対する実践の積み上げが不十分である。</p>	<p>①企業と連携するには具体的な要望を整理することが必要である。</p> <p>②「ようこそ先輩」の取組をやってはいても、進学競争の中で効果が薄まってしまっている。</p> <p>③県立高校と県教育委員会と企業との連携を考えるにあたって、行政（特に地元行政）が抜けている。</p> <p>④高校側は、生徒を知ってもらうためにもっと地域に対して行動を起こさないといけない。</p>	<p>①教職員が学校の教育活動の中で、いつインターンシップに生徒を出して良いのかわからないという意識の低さが課題である。</p> <p>②普通科の教員は意識はあっても、場面場面において、こういったキャリア教育をすべきなのかわからない。</p> <p>③普通科の教員は、進学が先決で、キャリア教育を受け入れる余裕が無い。</p> <p>【予め示した課題】</p> <p>(1) 異なる校種間の連携を図るにあたり、教職員や地域関係者のキャリア教育に対する正しい理解と意欲が不足している。</p> <p>(2) キャリア教育に関する教員研修が、今年度から選択研修となったが、教員のキャリア教育への意識を反映して申込者数が少ないことから、参加者を増加させることが課題である。</p>
<p>具体的方策 (前回出た提案)</p>	<p>(ア) インターンシップをもっと活発にする。</p> <p>(イ) モデル校が企業と数年連携し、社員教育用カリキュラム等活用して、高校でのキャリア教育を行う。</p> <p>(ウ) モデル的に地域の普通科高校と地元小学校や中学校が連携してキャリア教育に取り組む。</p> <p>(エ) カリキュラムの中に、キャリア教育をきちんと位置づけて実施する。</p> <p>(オ) 小中学校で、カリキュラムとして「このような段階（将来、●●になりたい等）までは、子どもたちに考えさせてみる」というキャリア教育を県全体で取り組む。</p> <p>(カ) いろんな職種の企業の方々に学校へ話にきてもらう。</p> <p>(キ) 高校生のインターンシップについて、1年生でいろんな職種を知り、2年生で自分が興味があったところにインターンシップに行く。</p> <p>(ク) 高校1年生、2年生、3年生の夏休みに違う会社でインターンシップを実施する。</p> <p>(ケ) 生きることの意義が底に流れているような系統的なキャリア教育を実施する。</p> <p>(コ) 合同会社説明会のような場での出会いを一回きりで終わらせるのではなく、そこに参加した企業の採用担当者と教員や行政が、定期的に連絡をとれる機会を設ける。</p>	<p>(ア) 企業と学校を結びつける「マッチング」の資質を持った人材が必要である、その人材として、企業の人事担当者OBなどを活用してはどうか。</p> <p>(イ) もっと企業、行政とタイアップして、就職先を県外外国に開拓する。</p> <p>(ウ) 商工会議所などがもっと活発にコーディネーター役を引き受け、マッチングに貢献する。</p> <p>(エ) 中学・高校の生徒向けに企業が業務内容について説明する場を設け、お互いのニーズのマッチングを図る。</p> <p>(オ) 特別支援学校の外部人材の方は押しが効き、必ず就職に結びつけていくので、そのような人材を県立高等学校でもっと活用する。</p>	<p>(ア) 教員がキャリア教育に取り組みやすい環境づくりに、地域の経済界が協力する。</p> <p>(イ) 特に普通科高校では、受け身的な取組だけでなく、工場や研究所等の現場に出向いて、職業を体感するような取組を実施する。</p> <p>(ウ) 学校と企業が力を合わせて、子どもたちの心が燃えるようなキャリア教育を実施する。</p> <p>(エ) 文化祭を公開し、企業等の方との交流の場にする。</p> <p>(オ) 企業の社会的貢献活動をもっと活用し、キャリア教育を推進する。</p>	